

IRENA理事会 閉会セッション

鷲尾副大臣御挨拶

(呼びかけ)

ラ・カメラ IRENA 事務局長、ご列席の皆様、

第21回 IRENA 理事会の閉会に際して、ご挨拶の機会をいただき大変
光栄に思います。

(今次会合の振り返り)

まず、今次理事会は、双方向で非常に充実した議論が行われ、大いに
その目的を達成したのではないかと考えております。

2日間の会期では、2020年から2021年の事業計画と予算の執行状
況の報告をはじめ、2022年から2023年の事業計画に関する暫定枠組、
そして、2023年から2027年の中期戦略について議論されたほか、6つ
のコラボラティブ・フレームワークの共同ファシリテーターから、大変興味
深い報告を得ることができました。

改めて、全体として多くの加盟国から様々な意見が表明されたことを議
長として評価したいと思います。

IRENA 事務局には、今回の会議で得られた方針をもとに、次回の理事会及び総会に向けた準備を強化していくことを是非ともお願いいたします。また、日本としましても、議長国として今回の理事会での成果がIRENAの本年の円滑な活動に活かされるよう、事務局と緊密に協力していく考えです。

(本年のIRENAの活動の重要性)

開会の挨拶でも言及いたしましたとおり、本年は我々の脱炭素社会の実現に向けた挑戦にとり、極めて重要な転機となる年です。その中において、IRENAの活動は、各国が歩むべき道を示す先導役として、かつてなく重要なものとなっております。

気候変動問題は、人類の克服すべき大きな課題です。しかしながら、この課題は、世界の生存、平和、繁栄のために一丸となって努力をする機会でもあります。私たちはその機会を決して逃してはなりません。IRENAでの議論は、間違いなく、現在、そして将来世代にとり不可欠なものとなるものです。改めて、皆様の再生可能エネルギーへの取り組みを前進させるためのコミットメントに感謝申し上げます。

(締めの挨拶)

最後になりましたが、今次理事会の議長を務められたことは、私にとって大きな喜びです。ラ・カメラ事務局長及び事務局の皆様、マゴンボ (Magombo) 副議長、ラポーターのノルウェー、ホスト国のUAEには、今次理事会の成功に向けたサポートに感謝いたします。

また、バーチャルな形式での本会議の実現に貢献して下さった通訳の方々にも心より感謝申し上げます。

全ての皆様に改めてお礼を申し上げるとともに、皆様の健康と安全を祈念させていただき、閉会の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(了)